

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2018（2019年更新版）に準拠して作成

抗真菌剤 オキシコナゾール硝酸塩錠
オキシコナゾール硝酸塩錠100mg「F」 オキシコナゾール硝酸塩錠600mg「F」
OXICONAZOLE NITRATE vaginal tablets

剤形	腔用錠剤（素錠）
製剤の規制区分	規制区分なし
規格・含量	オキシコナゾール硝酸塩錠 100mg 「F」： 1錠中、オキシコナゾール硝酸塩 100mg 含有 オキシコナゾール硝酸塩錠 600mg 「F」： 1錠中、オキシコナゾール硝酸塩 600mg 含有
一般名	和名：オキシコナゾール硝酸塩（JAN） 洋名：Oxiconazole Nitrate（JAN、INN）
製造販売承認年月日 薬価基準収載・販売開始 年月日	製造販売承認年月日：2013年12月3日 薬価基準収載年月日：2014年6月20日 発売年月日：2000年7月7日
製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：富士製薬工業株式会社
医薬情報担当者の連絡先	担当者氏名： 所属： 連絡先：
問い合わせ窓口	富士製薬工業株式会社 学術情報課 TEL：0120-956-792、FAX：076-478-0336（電話受付時間 9:00～ 17:00、土日祝日および当社休業日を除く） 医療関係者向けホームページ https://www.fuji-pharma.jp/home

本 IF は、2023年8月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の情報は、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構の医薬品情報検索ページで確認してください。

医薬品インタビューフォーム利用の手引きの概要

－日本病院薬剤師会－

(2020年4月改訂)

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として、医療用医薬品添付文書（以下、添付文書）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合があり、製薬企業の医薬情報担当者（以下、MR）等への情報の追加請求や質疑により情報を補完してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための項目リストとして医薬品インタビューフォーム（以下、IFと略す）が誕生した。

1988年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬）学術第2小委員会がIFの位置付け、IF記載様式、IF記載要領を策定し、その後1998年に日病薬学術第3小委員会が、2008年、2013年に日病薬医薬情報委員会がIF記載要領の改訂を行ってきた。

IF記載要領2008以降、IFはPDF等の電子的データとして提供することが原則となった。これにより、添付文書の主要な改訂があった場合に改訂の根拠データを追加したIFが速やかに提供されることとなった。最新版のIFは、医薬品医療機器総合機構（以下、PMDA）の医療用医薬品情報検索のページ（<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>）にて公開されている。日病薬では、2009年より新医薬品のIFの情報を検討する組織として「インタビューフォーム検討会」を設置し、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切に審査・検討している。

2019年の添付文書記載要領の変更に合わせ、IF記載要領2018が公表され、今般「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」に関連する情報整備のため、その更新版を策定した。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、医師・薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

IFに記載する項目配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠し、一部の例外を除き承認の範囲内の情報が記載される。ただし、製薬企業の機密等に関わるもの及び利用者自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、利用者自らが評価・判断・臨床適用するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

IFの提供は電子データを基本とし、製薬企業での製本は必須ではない。

3. IFの利用にあたって

電子媒体のIFは、PMDAの医療用医薬品情報検索のページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従ってIFを作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより利用者自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、製薬企業が提供する改訂内容が明らかにした文書等、あるいは各種の医薬品情報提供サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書をPMDAの医薬品医療機器情報検索のページで確認する必要がある。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「V. 5. 臨床成績」や「XII. 参考資料」、「XIII. 備考」に関する項目等は承認を受けていない情報が含まれることがあり、その取り扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用していただきたい。IFは日病薬の要請を受けて、当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業が作成・提供する、医薬品適正使用のための学術資料であるとの位置づけだが、記載・表現には薬機法の広告規則や医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン、製薬協コード・オブ・プラクティス等の制約を一定程度受けざるを得ない。販売情報提供活動ガイドラインでは、未承認薬や承認外の用法等に関する情報提供について、製薬企業が医療従事者からの求めに応じて行うことは差し支えないとされており、MR等へのインタビューや自らの文献調査などにより、利用者自らがIFの内容を充実させるべきものであることを認識しておかなければならない。製薬企業から得られる情報の科学的根拠を確認し、その客観性を見抜き、医療現場における適正使用を確保することは薬剤師の本務であり、IFを利用して日常業務を更に価値あるものにしていただきたい。

目次

I. 概要に関する項目	1	4. 用法及び用量に関連する注意とその理由	13
1. 開発の経緯	1	5. 重要な基本的注意とその理由	13
2. 製品の治療学的特性	1	6. 特定の背景を有する患者に関する注意	13
3. 製品の製剤学的特性	1	7. 相互作用	14
4. 適正使用に関して周知すべき特性	1	8. 副作用	14
5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項	1	9. 臨床検査結果に及ぼす影響	14
6. RMP の概要	1	10. 過量投与	14
II. 名称に関する項目	2	11. 適用上の注意	14
1. 販売名	2	12. その他の注意	14
2. 一般名	2	IX. 非臨床試験に関する項目	15
3. 構造式又は示性式	2	1. 薬理試験	15
4. 分子式及び分子量	2	2. 毒性試験	15
5. 化学名（命名法）又は本質	2	X. 管理的事項に関する項目	16
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	1. 規制区分	16
III. 有効成分に関する項目	3	2. 有効期間	16
1. 物理化学的性質	3	3. 包装状態での貯法	16
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	4. 取扱い上の注意	16
3. 有効成分の確認試験法、定量法	3	5. 患者向け資材	16
IV. 製剤に関する項目	4	6. 同一成分・同効薬	16
1. 剤形	4	7. 国際誕生年月日	16
2. 製剤の組成	4	8. 製造販売承認年月日及び承認番号、薬価基準収載年月日、販売開始年月日	16
3. 添付溶解液の組成及び容量	5	9. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	16
4. 力価	5	10. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	17
5. 混入する可能性のある夾雑物	5	11. 再審査期間	17
6. 製剤の各種条件下における安定性	5	12. 投薬期間制限に関する情報	17
7. 調製法及び溶解後の安定性	6	13. 各種コード	17
8. 他剤との配合変化（物理化学的变化）	6	14. 保険給付上の注意	17
9. 溶出性	6	X I. 文献	18
10. 容器・包装	6	1. 引用文献	18
11. 別途提供される資材類	6	2. その他の参考文献	18
12. その他	6	X II. 参考資料	19
V. 治療に関する項目	7	1. 主な外国での発売状況	19
1. 効能又は効果	7	2. 海外における臨床支援情報	19
2. 効能又は効果に関連する注意	7	X III. 備考	20
3. 用法及び用量	7	1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報	20
4. 用法及び用量に関連する注意	7	2. その他の関連資料	20
5. 臨床成績	7		
VI. 薬効薬理に関する項目	9		
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	9		
2. 薬理作用	9		
VII. 薬物動態に関する項目	10		
1. 血中濃度の推移	10		
2. 薬物速度論的パラメータ	10		
3. 母集団（ポピュレーション）解析	10		
4. 吸収	11		
5. 分布	11		
6. 代謝	11		
7. 排泄	11		
8. トランスポーターに関する情報	12		
9. 透析等による除去率	12		
10. 特定の背景を有する患者	12		
11. その他	12		
VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 ..	13		
1. 警告内容とその理由	13		
2. 禁忌内容とその理由	13		
3. 効能又は効果に関連する注意とその理由	13		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

オキシコナゾール硝酸塩はスイスの Siegfried 社と F. Hoffmann-La Roche 社とによって共同開発されたイミダゾール系抗真菌剤で、強い抗真菌作用と広範囲な抗真菌スペクトルを有する。

本邦ではクリーム剤、液剤及び錠剤が承認・販売されている。

本剤は富士製薬工業株式会社が後発医薬品として開発し、オキコナール V100、オキコナール V600 として 2000 年に製造承認を受けた。その後、「医療事故を防止するための医薬品の表示事項及び販売名の取扱いについて」（平成 12 年 9 月 19 日付医薬発第 935 号）に基づき、医療事故防止対策として、販売名をオキコナール錠 100mg、オキコナール錠 600mg に変更し、2008 年に製造販売承認を受けた。更にその後、2013 年 12 月にオキシコナゾール硝酸塩錠 100mg 「F」及びオキシコナゾール硝酸塩錠 600mg 「F」と販売名を変更した。

2. 製品の治療学的特性

- 皮膚糸状菌、酵母状真菌、二形性真菌（臨床分離株）等に対して広範囲な抗菌スペクトルを有し、好気性、通性嫌気性のグラム陽性球菌及び桿菌に対しても抗菌活性を示す。（「VI. 2 薬理作用」の項参照）
- 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。主な副作用としては、発疹、発赤、刺激感などの報告がある。（「VIII. 8 副作用」の項参照）

3. 製品の製剤学的特性

- 小型の錠剤で挿入しやすい。（「IV. 1 剤形」の項参照）

4. 適正使用に関して周知すべき特性

適正使用に関する資材、最適使用推進ガイドライン等	有無
RMP	無
追加のリスク最小化活動として作成されている資材	無
最適使用推進ガイドライン	無
保険適用上の留意事項通知	無

(2026 年 4 月時点)

5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項

(1) 承認条件

該当しない

(2) 流通・使用上の制限事項

該当しない

6. RMP の概要

該当しない

Ⅱ. 名称に関する項目

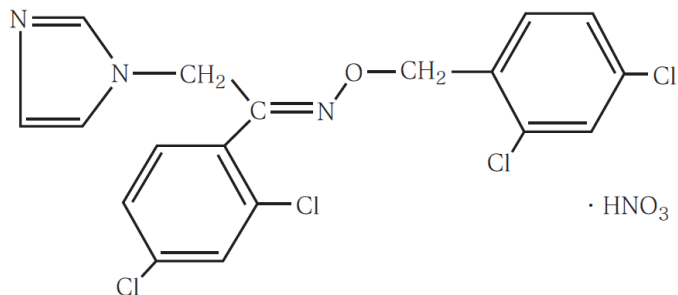
1. 販売名

- (1) 和名 : オキシコナゾール硝酸塩錠 100mg 「F」
オキシコナゾール硝酸塩錠 600mg 「F」
- (2) 洋名 : Oxiconazole nitrate vaginal tablets
- (3) 名称の由来 : 有効成分に係る一般名+剤型+含量+会社名(屋号)に基づく。
「F」は富士製薬工業株式会社の屋号である。

2. 一般名

- (1) 和名(命名法) : オキシコナゾール硝酸塩 (JAN)
- (2) 洋名(命名法) : Oxiconazole Nitrate (JAN, INN)
- (3) ステム(stem) : 抗真菌剤 -conazole

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : C₁₈H₁₃Cl₄N₃O·HNO₃
分子量 : 492.14

5. 化学名(命名法)又は本質

2',4'-Dichloro-2-imidazol-1-ylacetophenone (*Z*)-[*O*-(2,4-dichlorobenzyl)oxime]
mononitrate

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

略号 : OCZ

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

- (1) 外観・性状：白色～微黄白色の結晶又は結晶性の粉末で、僅かに特異なにおいがある。
- (2) 溶解性：N,N-ジメチルホルムアミドに溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、エタノール(95)、無水酢酸又は酢酸(100)にやや溶けにくく、水に極めて溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。
- (3) 吸湿性：該当資料なし
- (4) 融点(分解点)、沸点、凝固点：融点 約 142℃(分解)
- (5) 酸塩基解離定数：該当資料なし
- (6) 分配係数：該当資料なし
- (7) その他の主な示性値：該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法、定量法

<確認試験法>¹⁾

- (1) ライネッケ塩試液による沈殿反応
- (2) 炎色反応試験 (2)
- (3) 赤外吸収スペクトル測定法
- (4) 硝酸塩の定性反応 (2)

<定量法>¹⁾

電位差滴定法

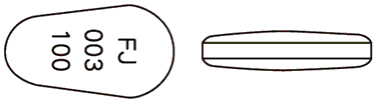
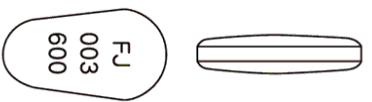
IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別

錠剤

(2) 製剤の外観及び性状

販売名	オキシコナゾール硝酸塩錠 100mg 「F」	オキシコナゾール硝酸塩錠 600mg 「F」
色・剤形	白色・アーモンド形の素錠	
外形		
大きさ	直径	20mm
	短径	12mm
	厚さ	5.5mm
	質量	1.2g
識別コード	FJ 003 100	FJ 003 600

(3) 識別コード

販売名	オキシコナゾール硝酸塩錠 100mg 「F」	オキシコナゾール硝酸塩錠 600mg 「F」
表示部位	錠剤、PTP	錠剤、PTP
表示内容	FJ 003 100	FJ 003 600

(4) 製剤の物性

該当資料なし

(5) その他

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量及び添加剤

販売名	オキシコナゾール硝酸塩錠 100mg 「F」	オキシコナゾール硝酸塩錠 600mg 「F」
有効成分	1錠中 オキシコナゾール 硝酸塩 100mg	1錠中 オキシコナゾール 硝酸塩 600mg
添加剤	乳糖水和物、結晶セルロース、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム	結晶セルロース、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム

(2) 電解質等の濃度

該当資料なし

(3) 熱量

該当資料なし

3. 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

4. カ価

該当しない

5. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

6. 製剤の各種条件下における安定性

(1) 長期保存試験²⁾

最終包装品を用いた長期保存試験（室温、なりゆき湿度、3年）の結果、成分含量、性状、崩壊性においては規格の範囲内であり、オキシコナゾール硝酸塩錠 100mg「F」及びオキシコナゾール硝酸塩錠 600mg「F」は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された。

オキシコナゾール硝酸塩錠 100mg「F」

試験項目	0 ヶ月	6 ヶ月	12 ヶ月	24 ヶ月	36 ヶ月
性状	白色のアーモンド形の素錠であった				
崩壊性(分)	適合	適合	適合	適合	適合
成分含量(%)	98.6	98.4	98.6	98.2	98.9

オキシコナゾール硝酸塩錠 600mg「F」

試験項目	0 ヶ月	6 ヶ月	12 ヶ月	24 ヶ月	36 ヶ月
性状	白色のアーモンド形の素錠であった				
崩壊性(分)	適合	適合	適合	適合	適合
成分含量(%)	101.2	98.6	99.0	102.6	100.4

(2) 加速試験³⁾

最終包装製品を用いた加速試験（温度 40±1℃、相対湿度 75±5%、6 ヶ月）の結果、オキシコナゾール硝酸塩錠 100mg 及びオキシコナゾール硝酸塩錠 600mg「F」は、全ての試験において、いずれも規格を満たすものであり、通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

オキシコナゾール硝酸塩錠 100mg「F」

試験項目	0 ヶ月	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状	白色のアーモンド形の素錠で、においはなかった			
確認試験 1)	適合	—	—	適合
確認試験 2)	適合	—	—	適合
確認試験 3)	適合	—	—	適合
質量偏差試験	適合	—	—	—
定量値 (%)	100.99	101.63	101.49	100.40

オキシコナゾール硝酸塩錠 600mg 「F」

試験項目	0 ヶ月	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状	白色のアーモンド形の素錠で、においはなかった			
確認試験 1)	適合	—	—	適合
確認試験 2)	適合	—	—	適合
確認試験 3)	適合	—	—	適合
質量偏差試験	適合	—	—	—
定量値 (%)	100.11	99.97	100.09	99.78

7. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

8. 他剤との配合変化（物理化学的変化）

該当しない

9. 溶出性

該当しない

10. 容器・包装

(1) 注意が必要な容器・包装、外観が特殊な容器・包装に関する情報

該当しない

(2) 包装

〈オキシコナゾール硝酸塩錠 100mg 「F」〉

120 錠 [6 錠 (PTP) × 20]

〈オキシコナゾール硝酸塩錠 600mg 「F」〉

30 錠 [6 錠 (PTP) × 5]

(3) 予備容量

該当しない

(4) 容器の材質

外箱 : 紙

PTP シート : 塩化ビニル・アルミニウムラミネートフィルム

11. 別途提供される資材類

該当資料なし

12. その他

該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

4. 効能又は効果
カンジダに起因する膣炎及び外陰膣炎

2. 効能又は効果に関連する注意

設定されていない

3. 用法及び用量

(1) 用法及び用量の解説

6. 用法及び用量
〈オキシコナゾール硝酸塩錠 100mg「F」〉
1日1回1錠を膣深部に挿入し、6日間継続使用する。
なお、真菌学的効果（一次効果）が得られない場合は、オキシコナゾール硝酸塩錠 100mg「F」を更に1日1回1錠6日間継続使用する。
〈オキシコナゾール硝酸塩錠 600mg「F」〉
1週1回1錠を膣深部に挿入する。
なお、真菌学的効果（一次効果）が得られない場合は、オキシコナゾール硝酸塩錠 600mg「F」を更に1回1錠使用する。

(2) 用法及び用量の設定経緯・根拠

該当資料なし

4. 用法及び用量に関連する注意

設定されていない

5. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当しない

(2) 臨床薬理試験：忍容性試験

該当資料なし

(3) 用量反応探索試験

該当資料なし

(4) 検証的試験

1) 有効性試験：

<p>17. 臨床成績</p> <p>17.1 有効性及び安全性に関する試験</p> <p>17.1.1 国内第Ⅲ相試験</p> <p>外陰腔カンジダ症患者又は腔カンジダ症患者を対象とした臨床試験において、オキシコナゾール硝酸塩 100mg を 1 日 1 回 6 日間使用したときの有効以上の有効率（1 週）は 81.9%（91/111 例）であった。</p> <p>副作用は認められなかった^{4) -10)}。</p> <p>17.1.2 国内第Ⅲ相試験</p> <p>外陰腔カンジダ症患者又は腔カンジダ症患者を対象とした臨床試験において、オキシコナゾール硝酸塩 600mg を 1 回使用したときの有効以上の有効率（1 週）は 86.1%（106/123 例）であった。</p> <p>副作用は認められなかった^{4) -10)}。自覚的症状の改善：帯下感に対して 84%（59/70）の改善率が得られた。</p>

2) 安全性試験

該当資料なし

(5) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査（一般使用成績調査、特定使用成績調査、使用成績比較調査）、製造販売後データベース調査、製造販売後臨床試験の内容
該当しない

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した調査・試験の概要
該当しない

(7) その他

該当資料なし

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

その他のイミダゾール系化合物（クロトリマゾール等）

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

オキシコナゾール硝酸塩の抗真菌活性は、直接的細胞膜障害作用により発揮される。また、低濃度域での部分的発育阻止効果には、エルゴステロール合成阻害作用が関与している^{11)、12)}。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

18.2 抗菌作用

18.2.1 オキシコナゾール硝酸塩は皮膚糸状菌、酵母状真菌、二形性真菌（臨床分離株）等に対して広範囲な抗菌スペクトルを有し、そのMICは10 μ g/mL以下であった。また、好気性、通性嫌気性のグラム陽性球菌及び桿菌に対しても抗菌活性を示すことが認められた¹¹⁾ (*in vitro*)。

菌種	MIC (μ g/mL)
<i>Trichophyton mentagrophytes</i>	0.08~0.31
<i>Trichophyton rubrum</i>	<0.04
<i>Epidermophyton floccosum</i>	<0.04
<i>Microsporum canis</i>	<0.04~0.31
<i>Candida albicans</i>	<0.04~10
<i>Cryptococcus neoformans</i>	<0.04~0.16
<i>Candida glabrata</i>	<0.04~0.16
<i>Aspergillus niger</i>	0.63~1.25
<i>Blastomyces dermatitidis</i>	<0.04

培地：Sabouraud dextrose agar

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

Ⅶ. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 臨床試験で確認された血中濃度：

16. 薬物動態

16.1 血中濃度

16.1.1 外陰腔カンジダ症患者 10 例にオキシコナゾール硝酸塩 100mg 錠を 1 日 1 回 1 錠 6 日間、また、9 例にオキシコナゾール硝酸塩 600mg 錠を 1 回 1 錠腔内投与したときの血漿中濃度は 6.1~36ng/mL の範囲を示し、おおむね 25ng/mL 以下であった¹³⁾。

16.1.2 健康女性 6 例にオキシコナゾール硝酸塩 100mg 錠を 1 日 1 回 1 錠 6 日間及びオキシコナゾール硝酸塩 600mg 錠を 1 回 1 錠腔内投与したときの血漿中濃度は、検出されないか、検出された場合でも 20ng/mL 以下であった¹³⁾。

(3) 中毒域

該当資料なし

(4) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) 消失速度定数

該当資料なし

(4) クリアランス

該当資料なし

(5) 分布容積

該当資料なし

(6) その他

該当資料なし

3. 母集団（ポピュレーション）解析

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) パラメータ変動要因

該当資料なし

4. 吸収

該当資料なし

5. 分布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

(6) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

6. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP 等）の分子種、寄与率

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び活性比、存在比率

該当資料なし

7. 排泄

(1) 排泄部位及び経路：

該当資料なし

(2) 排泄率：

該当資料なし

(3) 排泄速度：

該当資料なし

8. トランスポーターに関する情報
該当資料なし

9. 透析等による除去率
該当資料なし

10. 特定の背景を有する患者
該当資料なし

11. その他
該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

設定されていない

2. 禁忌内容とその理由

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

2.1 本剤及び他のオキシコナゾール硝酸塩製剤に過敏な患者

3. 効能又は効果に関連する注意とその理由

設定されていない

4. 用法及び用量に関連する注意とその理由

設定されていない

5. 重要な基本的注意とその理由

設定されていない

6. 特定の背景を有する患者に関する注意

(1) 合併症・既往症等のある患者

設定されていない

(2) 腎機能障害患者

設定されていない

(3) 肝機能障害患者

設定されていない

(4) 生殖能を有する者

設定されていない

(5) 妊婦

9.5 妊婦

妊娠 12 週未満の妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。

(6) 授乳婦

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

(7) 小児等

設定されていない

- (8) 高齢者
設定されていない

7. 相互作用

- (1) 併用禁忌とその理由
設定されていない
- (2) 併用注意とその理由
設定されていない

8. 副作用

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

- (1) 重大な副作用と初期症状
設定されていない

- (2) その他の副作用

11.2 その他の副作用

	0.1～5%未満	頻度不明
過敏症		発疹等
膣・外陰	発赤	刺激感、ひりひり感、そう痒感、疼痛等

9. 臨床検査結果に及ぼす影響
該当資料なし

10. 過量投与
該当資料なし

11. 適用上の注意

14. 適用上の注意

14.1 薬剤使用時の注意

膣にのみ使用し、経口投与しないこと。

12. その他の注意

- (1) 臨床使用に基づく情報
設定されていない
- (2) 非臨床試験に基づく情報
設定されていない

Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

- (1) 薬効薬理試験：該当資料なし
- (2) 安全性薬理試験：該当資料なし
- (3) その他の薬理試験：該当資料なし

2. 毒性試験

- (1) 単回投与毒性試験：該当資料なし
- (2) 反復投与毒性試験：該当資料なし
- (3) 遺伝毒性試験：該当資料なし
- (4) がん原性試験：該当資料なし
- (5) 生殖発生毒性試験：該当資料なし
- (6) 局所刺激性試験：該当資料なし
- (7) その他の特殊毒性：該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤：規制区分なし

有効成分：規制区分なし

2. 有効期間

3年

3. 包装状態での貯法

室温保存

4. 取扱い上の注意

20. 取扱い上の注意

アルミピロー開封後は遮光保存すること。

5. 患者向け資材

患者向医薬品ガイド：なし

くすりのしおり：あり

その他の患者向け資材：あり（腔錠の使い方）

6. 同一成分・同効薬

<同一成分薬>

オキシナゾール腔錠 100mg、オキシナゾール腔錠 600mg（田辺三菱）

<同効薬>

クロトリマゾール、イソコナゾール硝酸塩、ミコナゾール硝酸塩等

7. 国際誕生年月日

不明

8. 製造販売承認年月日及び承認番号、薬価基準収載年月日、販売開始年月日

販売名	製造販売承認年月日	承認番号	薬価基準収載年月日	販売開始年月日
オキシコナゾール硝酸塩腔錠 100mg「F」	2013年12月3日	22500AMX01906000	2014年6月20日	2000年7月7日
オキシコナゾール硝酸塩腔錠 600mg「F」	2013年12月3日	22500AMX01907000	2014年6月20日	2000年7月7日

9. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

10. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

11. 再審査期間

該当しない

12. 投薬期間制限に関する情報

本剤は厚生労働省告示第97号（平成20年3月19日付）による「投与期間に上限の設けられている医薬品」に該当しない。

13. 各種コード

販売名	厚生労働省 薬価基準収載 医薬品コード	個別医薬品 コード (YJコード)	HOT（9桁）番号	レセプト 電算処理 システム用 コード
オキシコナゾール硝 酸塩錠 100mg 「F」	2529709H1062	2529709H1062	112876501	621287601
オキシコナゾール硝 酸塩錠 600mg 「F」	2529709H2069	2529709H2069	112877201	621287701

14. 保険給付上の注意

本品は保険診療上の後発医薬品に該当する。

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) 日本薬局方外医薬品規格2002
- 2) 社内資料 (安定性試験)
- 3) 社内資料 (加速試験)
- 4) 林 博章, 他: 基礎と臨床. 1989 ; 23 (7) : 2863-2869
- 5) 三輪 是, 他: 基礎と臨床. 1989 ; 23 (7) : 2871-2877
- 6) 松原穰介, 他: 薬理と治療. 1989 ; 17 (6) : 2949-2958
- 7) 曾我賢次, 他: 基礎と臨床. 1989 ; 23 (8) : 3309-3319
- 8) 辰田一郎, 他: 薬理と治療. 1989 ; 17 (6) : 2959-2966
- 9) 内藤博之, 他: 薬理と治療. 1989 ; 17 (7) : 3643-3653
- 10) 松井和夫, 他: 基礎と臨床. 1989 ; 23 (8) : 3320-3330
- 11) 平谷民雄, 他: CHEMOTHERAPY. 1984 ; 32 (9) : 568-584
- 12) 平谷民雄, 他: CHEMOTHERAPY. 1985 ; 33 (3) : 215-226
- 13) 高田道夫, 他: 産婦人科の世界. 1989 ; 41 (5) : 471-479

2. その他の参考文献

該当資料なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況
該当しない
2. 海外における臨床支援情報

XⅢ. 備考

1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

(1) 粉碎

該当資料なし

(2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの透過性

該当しない

問い合わせ窓口：

富士製薬工業株式会社 学術情報課

TEL：0120-956-792

FAX：076-478-0336

(電話受付時間 9:00～17:00、土日祝日および当社休業日を除く)

2. その他の関連資料

患者向け資材は、製品情報サイト (<https://www.fuji-pharma.jp>) から入手可能である。

